

ROSE

文化情報誌
ロゼ

2018 SUMMER Vol.104

ROSÉ THEATRE
ART INFORMATION
OF FUJICITY
CULTURE MAGAZINE
ROSÉ



カレタハカタル

潤井川からたの小径から

INTERVIEW

片岡 愛之助

特集 歌舞伎の魅力

EVENT CALENDAR 2018

特集 ロゼ・クラシックカフェ

Pickup Artist アート展優秀者

芸術委員リレーエッセイ

Flash Back

INFORMATION FROM ROSÉ THEATRE

ROSE ロゼ

文化情報誌 ロゼ 2018年 6月発行 (第104・夏号)

発行/公益財団法人富士市文化振興財団 〒416-0953 富士市御原町 1750 番地 TEL (0545) 60-2510

企画・編集・制作/公益財団法人富士市文化振興財団 株式会社アトミック





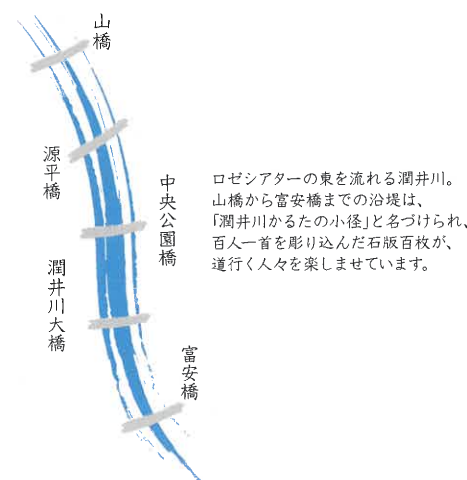
「百人一首」の成立

平安末期から鎌倉初期にかけて活躍した歌人藤原定家が、息子為家の義父、宇都宮頼綱より京都嵯峨野にある別荘の襖紙に載せるために依頼を受け選んだ歌が「百人一首」の草案になったと言われています。当時の貴族の屋敷では、インテリアとして屏風や襖に、和歌を書いた色紙を貼ることが流行していたそうです。

ちなみに「小倉百人一首」と呼ばれるのは、撰者定家が晩年を京都小倉山の山荘で過ごしたことに由来し、称されるものです。

百首の並び順について

百首にはそれぞれ歌番号がついていますが、この並びは基本的な作者の没年順です。(九七番以降の作者については、編纂当時存命だったので官位順)巻頭の天智天皇(六七年没)から百番の順徳院(二四二年没)まで、約六〇〇年にも及ぶ年代から選ばれており、「百人一首」の背負う歴史的スケールの大きさが窺えます。わずかに百枚の札に収められた我が国古典文学の結集。そこには四季折々の自然の移ろいや人々のくらし、心情が描かれ、詠い込まれています。



藤原定家

(ふじわらのさだいえ 1162-1241)

平安末期から鎌倉初期にかけ活躍した歌人。「百人一首」を編纂。二つの勅撰集、「新古今和歌集」、「新勅撰和歌集」を選進したことで有名。「定家」は「ていか」とも読まれる。

歌舞伎俳優

かたおか あい の すけ

片岡 愛之助

二〇一八年九月松竹大歌舞伎出演の、片岡愛之助さんにお話を伺いました。

PROFILE

六代目 片岡 愛之助 松嶋屋

昭和47年生まれ。

昭和56年12月に十三世片岡仁左衛門の部屋子となり、南座「勸進帳」の太刀持音若で片岡千代丸を名のり初舞台。平成4年1月に片岡秀太郎の養子となり、大阪・中座「勸進帳」の駿河次郎ほかで六代目として片岡愛之助を襲名。上方歌舞伎の継承者として期待を背負い、特に座頭を勤める兵庫県豊岡市の永楽館歌舞伎や徳島県・大塚国際美術館でのシスターナ歌舞伎では古典の復活や新作にも力を入れている。8月は新作歌舞伎「NARUTO」(新橋演舞場)に出演。歌舞伎以外にも2018年10月からの連続テレビ小説「まんぷく」(NHK)、2019年2月公開予定の映画「七つの会議」(福澤克雄監督)など話題作への出演が控える。



Contents

- カルタハカタル
潤井川かるたの小径から 1
- INTERVIEW
片岡 愛之助 2
- 特集 歌舞伎の魅力 5
- EVENT CALENDAR 2018 7
- 特集 ロゼ・クラシックカフェ
素顔の大作作曲家たち 第21回
デビューを聴いた日本の文豪たち 9
- Pickup Artist
新進アーティスト作品展 vol.16
Art Generation 2018
優秀賞受賞 小松 麻里子 11
- 芸術委員リレーエッセイ
ロゼシアター開館25周年に寄せて 12
- Flash Back 13
- INFORMATION FROM ROSÉ THEATRE
◆お知らせ
◆ふじ紙のアートミュージアム
◆レストラン「ロゼテラス」
◆プレゼントクイズ
◆休館日のお知らせ
◆編集後記 14



歌舞伎はもともと庶民の娯楽、 肩肘張らずに楽しみましよう



公演の見所をお聞かせください。

歌舞伎をご覧になる方は、三大名作の一つということでご存知かもしれませんが、『義経千本桜』というのは、一見すると義経が主役かと思うのですが、義経にまつわる人の話がずつとあって、今回上演する「道行初音旅」と「川連法眼館」はその長い物語の中でも一部分になります。「道行初音旅」では、満開の吉野の桜が背景となりまして、静御前が、静の護衛をしながらお伴をしている佐藤源九郎忠信に化けた子狐と、恋人の義経のもとへ帰っていくというところから始まります。「川連法眼館」でもそうですが、この子狐が化けているというのがまずポイントです。よく漫画などで「尻尾が出るよ?」とかあるじゃないですか。そういう化けていることを匂わせる箇所が随所にあつたりして、楽しめるようになっていきます。あとは、特に「川連法眼館」では親と子の愛情、そして忠義の心というのを感じていただけたらいいのではないかなと思います。また、初めて歌舞伎をご覧になる方は、歌舞伎は基本的に全部男性が演じますので、女方の魅力的な美しさというものもご覧になっていただきたいです。あとは早替りなどもあり、本当に見所満載です。歌舞伎はもともと庶民の娯楽なので、肩肘張らずに楽しんでいただけたらそれでもいいと思いますね。

歌舞伎以外にも舞台にテレビにと積極的に活動されていますね。

ここ数年、割合としては歌舞伎半分、それ



文化に理解がある方々ばかりで、非常に盛り上がり嬉しかったのですが、これが歌舞伎でできたらまた違う喜びがあるのではないかなという思いもありました。なので、精力的に海外公演にも取り組んでいきたいです。お忙しい日々かと思いますが、リフレッシュする時は何をなされていますか?

結婚してからは、温泉によく行くようになりました。あとはオープンカーでドライブとか。屋根を開けてガッツと走ると気分がいいですね。

愛之助さんは
静岡県とは何かご縁はありますか?

以前も巡業で伺わせていただいたことがあります。プライベートでは知人を訪ねたり、温泉にも行きますね。この間も、うちの妻と寸又峡に遊びに行きました。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

ひとりでも多くの方に公演をご観いただきたいです。ですから歌舞伎を観に行こうかなと思われたら、ぜひご近所の方々を誘ってご来場ください。やはりきっかけがあれば観てみたいという方は多いと思うんです。この記事をお読みいただいた皆さまが代表して宣伝するくらいの勢いで周りの方を誘って、一緒に楽しんでいただけますと嬉しいですね。そして、幅広い年代で楽しんでいただけるように公演を作っていますので、遠慮なくお子さんも一緒に連れてきてください。皆さままで歌舞伎をリラックスしてご覧いただく、面白かったなと思ったら、ご自分のブログだったりSNSだったりでご披露していただきたいと思います。「歌舞伎を皆で観たい」と、なっていたらただけならすごく嬉しいですね。

ありがとうございました。

取材・文／川村桂一朗 撮影／石川俊明
取材協力／松竹株式会社

以外のお仕事半分で毎年取り組んでいます。先輩方からの古典歌舞伎の継承は当たり前前の作業として、四百年という歴史の伝統を守っていく上で絶対に私達がやらなければならぬ非常に大切なことです。しかし、歌舞伎にもいろいろありまして、例えば新作歌舞伎であったり、他分野とのコラボレーションであったり、そういった新しい歌舞伎を作っていくことも重要です。そういう時に、歌舞伎以外のお仕事で培ったものが使えたり、また逆に歌舞伎のことが他のお仕事で使えたりと、どちらをやらせていただいても得るものがあり、勉強になります。

今後取り組んでみたいことはありますか?

もつと地方巡業に取り組みたいです。大都市までお出掛けしてお芝居をご覧いただくのは、皆さん生活もありますし、なかなか大変ですよ。うちの街の会館で歌舞伎をやってくれるならばと気軽に足を運んでくださって、上演する機会が増えればもっと歌舞伎というものが身近に感じられると思うんです。私は巡業が大好きなので、ぜひこれからも巡業に勤めたいと思います。また、海外にももつと日本の文化を知っていただきたいなという思いがあります。海外公演という夢もひとつあったのですが、三月に三谷幸喜さんの舞台『酒と涙とジキルとハイド』で初めて叶いました。現地では凄く日本の



歌舞伎プレセミナー

講師 葛西聖司氏(古典芸能解説者)

日時 平成三〇年七月二十六日(木)

会場 開場十八時三〇分 開演十九時

会場 ロゼシアター 小ホール

入場無料 自由席(要整理券) ※未就学児入場不可

※整理券はロゼシアター窓口にて配布中



葛西聖司

※松竹大歌舞伎公演の情報は、本誌6ページをご覧ください。

歌舞伎の魅力

よし つね せん ほん ざくら

『義経千本桜』の見どころ

水落 潔

今年の松竹大歌舞伎は片岡愛之助、中村老太郎、中村松江、市川門之助ほか人気役者が出演して、『義経千本桜』の「道行初音旅」と「川連法眼館」を上演します。

『義経千本桜』は延享四（一七四七）年に二世竹田出雲、三好松洛、並木千柳が合作した全五段の時代物で、人形浄瑠璃（文楽の祖先）の竹本座で初演、すぐに歌舞伎に移されて人気狂言になりました。前年に初演した『菅原伝授手習鑑』、翌年に初演した『仮名手本忠臣蔵』

とともに歌舞伎・文楽の三大名作と呼ばれています。

『義経千本桜』は源平合戦を素材にした作品で、壇ノ浦合戦で死んだはずの平知盛、維盛、教経が実は生き延びていたという大胆な設定のもとに、源義経を狂言回しにして彼らの後の運命を描く構成になっています。その物語の一方、戦に明け暮れる人間たちの修羅の世界と対比して、ひたすら親を慕う子狐の姿を描き、人間の業の深さと浅ましさを浮き彫りにしています。



『義経千本桜 川連法眼館』片岡愛之助の源九郎狐

この狐の姿は幼くして親に別れ、平家討伐の大功をたてながら兄頼朝に追われる義経の人生と重なりあっています。

今回上演する「道行初音旅」と「川連法眼館」は、この狐を主人公にした場面で、全体の四段目に当たります。

「道行初音旅」は満開の桜の咲く吉野山を舞台にした舞踊劇です。五段構成の時代浄瑠璃では四段目の最初に「道行」という舞踊劇を上演するのが習わしでした。「道行」とは旅をする人々の姿を描いた場面のことです。頼朝に追われた義経は、愛人の静御前に形見として初音の鼓を与え、家来の佐藤忠信に守護を頼み船で九州へ向かいましたが、嵐で吹き戻され、今は吉野山の川連法眼館に匿われています。それを知った静は忠信を供にして吉野山に向かいます。「恋と忠義はいずれが重い」という清元の艶やかな語りの後、塗笠と杖を持った上臈姿の静が登場します。静は義経を慕う思いを見せ形見の鼓を打つと、どこからともなく忠信が現れます。忠信は実は鼓の皮に張られた狐の子で、忠信に化けて静の守護

をしてきたのです。鼓の音に酔うような振りを見せた後、忠信になるところで狐の本性を見せます。この後二人は、里から聞こえてくる歌に合わせて踊り、しばしの憩いを取ります。「女難男難」で二人が立雛の姿になるところは一幅の絵で見どころになっています。二人は義経から拝領した鎧と鼓を飾って義経に見立てます。忠信はこの鎧を頂いたのは兄継信の忠節だったと言い、八島の戦の様子を語ります。ここは清元と竹本（義太夫）の掛合の豪快な語りになります。忠信は着物を脱ぎ源氏車を散らした褌袴姿で戦物語を始めます。源平互いの様子、平家の武将景清と源氏の勇者三保谷の一騎打ち、平教経の放った矢で継信が義経の身替りになった様子などを立体的に演じ分けるのが見どころです。二人が旅仕度をしたところへ鎌倉方の早見藤太が家来を連れてやってきます。藤太は三枚目の敵役、家来は花四天と呼ばれる役柄です。コミカルな演技が笑いを呼びます。藤太を追い払った忠信は静の供をします。ここで再び狐の本性を覗かせます。

松竹大歌舞伎

平成三十年度（公社）全国公立文化施設協会 主催 西コース 製作 松竹

義経 千本桜
一、道行初音旅 清元連中 竹本連中
二、川連法眼館 一 幕

主な出演者

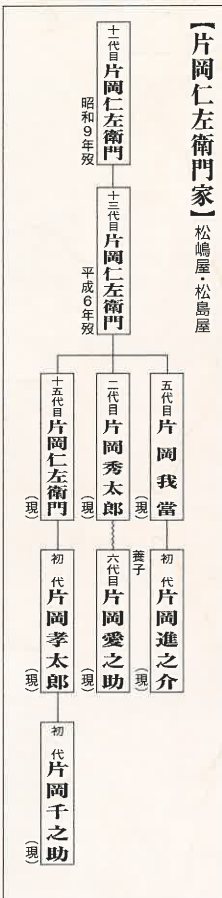
片岡愛之助（松嶋屋）
中村松 江（加賀屋）
中村老太郎（成駒家）
中村寿治郎（成駒家）
市川猿 弥（澤海家）
上村吉 弥（美吉屋）
市川門之助（瀧乃屋）



日時 平成三〇年九月五日（水）
昼の部／開場十二時三〇分 開演十三時
夜の部／開場十七時 開演十七時三〇分

会場 ロゼシアター 中ホール

入場料 全席指定 ※未成年者入場不可
一階席六、〇〇〇円、二階席五、〇〇〇円 学生一、〇〇〇円
チケット発売日
六月二十日（木）十時（Web）六月二十日（金）十時（窓口）



「川連法眼館」は義経のもとに本物の忠信が訪ねてくる場面から始まります。忠信は織物の袴を着た颯爽とした武士で、永らく故郷で傷養生していたと語ります。義経は忠信に静御前や鼓のことを問いますが、本物の忠信には何のことか分かりません。怒った義経は家来の亀井と駿河を呼び出し忠信の詮議を命じます。そこへ静と忠信が来たという知らせが入り、静が登場します。二人の忠信がいると知った義経は、鼓を打つとどこからか忠信が現れたという静の言葉聞き、静に詮議を命じます。静が鼓を打つと突然忠信が現れます。狐の化けた忠信で、ここは歌舞伎の仕掛けの妙を見せる場面です。本物の忠信と狐忠信の演じ分けが見どころです。御大将の義経、艶やかな静、対照的な扮装の亀井と駿河。時代物らしい歌舞伎の様式美が舞台を盛り上げます。静に問い詰められた狐忠信は本性を明かして消え、瞬時に白狐の姿になって床下から現れます。早替りという手法です。この後、狐忠信は欄干渡りをはじめ様々な技法を使って狐の姿を表現します。これらをケレンと呼んでいます。観客の目を楽しませ

【水落 潔プロフィール】

◆演劇評論家
一九三六年大阪生まれ。一九六〇年早稲田大学第一文学部演劇科卒業。一九六六年毎日新聞社入社、一九七〇年から学芸部演劇記者として同紙（東京）の劇評を担当、学芸部副部長、編集委員、特別委員を経て一九九六年退社、客員編集委員。二〇〇〇年に桜美林大学教授に就任。二〇〇七年退職。名誉教授。日本演劇協会、都民劇場の各理事。日本芸術文化振興会、セゾン文化財団の各評議員。富土市文化振興財団芸術委員。

◆著書
「文楽」「上方歌舞伎」（芸術選奨文部大臣新人賞受賞）、「歌舞伎鑑賞辞典」「平成歌舞伎俳優論」「演劇散歩」「幸四郎の見果てぬ夢」など。



EVENT CALENDAR 2018

9 SEPTEMBER

9/5 水曜日 **松竹大歌舞伎**
 主な出演: 片岡愛之助 ほか
 中ホール
 昼の部/開場/12:30 開演/13:00
 夜の部/開場/17:00 開演/17:30
 入場料(全席指定・税込)
 1階席/6,000円 2階席/5,000円 学生/1,000円
 ※未就学児入場不可



9/8 土曜日 **H ZETT M ピアノ独演会2018**
九月～富士の陣～
 中ホール
 開場16:00 開演17:00
 入場料(全席指定・税込)
 一般/4,500円 ペア券/8,000円(前売のみ)
 学生/1,000円
 ※4歳以上要チケット、3歳以下入場不可



9/20 木曜日 **チケット発売日** STC presents **めざましクラシックス in 富士**
web
 出演: 高嶋ちさ子、軽部真一 他
 公演日/2月2日(土)
 大ホール
 開場/14:30 開演/15:00
 入場料(全席指定・税込)
 1階席/5,500円 2階席/4,500円
 学生/1,000円 ※未就学児入場不可
9/21 金曜日 **窓口**



9/27 木曜日 **チケット発売日** ロゼフォークプラザ Vol.15 **～加藤登紀子と素敵な仲間～**
web
 出演: 加藤登紀子、宮沢和史、辛島美登里
 公演日/2月24日(日)
 大ホール
 開場/17:00 開演/17:30
 入場料(全席指定・税込)
 均一/6,500円 ※未就学児入場不可
9/28 金曜日 **窓口**



9/29 土曜日 **チケット発売日** 劇団四季『SONG&DANCE 65』
web
 公演日/12月12日(水)
 大ホール
 開場/18:00 開演/18:30
 入場料(全席指定・税込)
 S席/8,640円 A席/6,480円
 B席/3,240円
 ※3歳以上有料(2歳以下は入場不可)
9/30 日曜日 **窓口**



8 AUGUST

8/6 月曜日 <ロゼ・こどもサマーフェスティバル> **ホール探検隊**
 大ホール
 6日(月)14:00～
 7日(火)10:00～、14:00～
 約100分 各回定員20名
 参加費無料/要電話予約 ※先着順
 対象:小学生とその保護者
 受付:7月13日(金)10:00～ TEL/0545-60-2500



8/7 火曜日 <ロゼ・こどもサマーフェスティバル> **スタンプラリー**
 4階会議室ほか
 10:00～14:00(スタート13:30まで)
 参加費無料
 協力:富士芸術村、富士子ども劇場、富士子どもの本を学ぶ連絡会、富士ミュージックフルートアンサンブル、フラワーセラピー研究会、富士、ガールスカウト富士地区連絡協議会、ヒップファミリークラブ



8/9 木曜日 <ロゼ・こどもサマーフェスティバル> **夏休みこどもアート展**
 1階ガレリア
 期間/8月9日(木)～8月16日(木)
 入場無料

8/17 金曜日 **チケット発売日** ロゼシアター開館 25周年記念 **ミュージカル I Live Here**
web&窓口
 演出・振付・脚色: 三浦克也
 公演日/10月27日(土)、28日(日)
 中ホール
 27日(土)開演/15:00/19:00
 28日(日)開演/11:00/15:00
 (全4ステージ)
 入場料(全席自由・税込)/均一:1,500円



8/18 土曜日 <ロゼ・こどもサマーフェスティバル> **トレインフェスタ**
 展示室
 8月18日(土)12:00～17:00
 8月19日(日)10:00～16:00
 入場無料
 協力(五十音順):伊豆箱根鉄道(株)、岳南電車(株)、923ネットワーク、西伊豆工芸、富士市民岳鉄イカシ隊、フジレールクラブ、身延線鉄道唱歌の会



8/25 土曜日 **ロゼシアター市民ミュージカル写真パネル展**
 1階ガレリア
 期間/8月25日(土)～9月30日(日)
 入場無料
 平成10年の「新・曾我物語～名残りの小袖」から昨年の「THE MUSICAL TIME 2017」まで、ロゼシアター市民ミュージカルの歴史を約120点の写真パネルで紹介いたします。



9 SEPTEMBER

9/2 日曜日 **ふじ寄席** **林家たい平の家族で楽しむ落語会3**
 出演: 林家たい平(落語)、柳實家小雪(水戸大神楽曲芸)
 中ホール
 開場/10:30 開演/11:00
 入場料(全席指定・税込)
 一般/2,500円 学生/1,000円
 ※4歳以上入場可(有料)
チケット発売日/ Web/6月28日(木) 窓口/6月29日(金)
9/2 日曜日 **窓口**



7 JULY

7/5 木曜日 **チケット発売日** ロゼシアター開館25周年記念 **バーンスタイン生誕100年記念** **佐渡裕指揮** **シエナ・ウィンド・オーケストラ演奏会2018**
web
 公演日/12月18日(火)
 大ホール
 開場/18:30 開演/19:00
 入場料(全席指定・税込)
 S席/7,500円 A席/6,500円
 学生/3,000円 ※未就学児入場不可
7/6 金曜日 **窓口**



7/14 土曜日 東京シティ・フィルのドラゴンクエスト in ロゼシアター **すぎやまこういち** **交響組曲「ドラゴンクエストV」天空の花嫁**
 指揮とお話: 井田勝大
 管弦楽: 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
 大ホール
 開場/17:00 開演/18:00
 入場料(全席指定・税込)
 S席/5,000円 A席/4,000円 学生/2,000円
 ※未就学児入場不可
7/14 土曜日 **窓口**



7/26 木曜日 **歌舞伎プレセミナー**
 講師: 葛西聖司(古典芸能解説者)
 小ホール
 開場/18:30 開演/19:00
 入場無料(要整理券)
 ※未就学児入場不可



8 AUGUST

8/4 土曜日 <ロゼ・こどもサマーフェスティバル> **ロゼこどもコンサート**
 協力: 富士クラシック協会
 中ホール
 1回目/開場/9:30 開演/10:00
 2回目/開場/12:30 開演/13:00
 ※各回とも0歳から入場可
 入場料(全席指定・税込)/均一:500円
 ※3歳以上有料
 (2歳以下は保護者1名につき1名までひざ上鑑賞無料)
8/4 土曜日 **窓口**



ロゼシアター主催公演のチケット購入方法
 ロゼシアター主催公演のチケットをご購入・ご予約の際は、「ロゼフレンドシップ」への登録が必要です。
 ロゼシアターのホームページや、窓口からご登録いただけます。(登録無料、有効期間1年)
 ※詳しくはロゼシアターホームページをご覧ください。ご購入後の取り消し、変更はできません。ご購入確定前に必ず(再度)内容についてご確認ください。お問い合わせ先 TEL.0545-60-2500 ※お問い合わせは9時～22時となります。
インターネットで 購入(24時間対応) ロゼシアターのホームページからご購入いただけます。ホームページ http://ros-theatre.jp モバイルサイト http://rose-theatre.jp/mobile/top_mo.htm ホームページからの購入は、座席選択が可能な公演があります。
 代金のお支払いとチケットのお引取りについて
 お引取り方法は、選択されたお支払い方法によって異なります。
 ◆クレジット・カードお支払い: 窓口またはセブン・イレブン店頭にてお引取り
 ◆セブン・イレブンお支払い: セブン・イレブン店頭にてお引取り
ロゼシアターで 直接購入 【チケット取扱時間: 休館日以外の9:00～20:00】 会館1階エレベーター横の会館事務所にて、現金でご購入。 ※発売初日は10:00～20:00
プレイガイドで 購入
ローソンチケット (各公演指定のLコードが必要です) TEL.0570-084-004



素顔の大作作曲家たち

第21回 ドビュッシーを聴いた日本の文豪たち

フランス近代音楽を代表する作曲家、クロード・ドビュッシー(写真・1)。今年はその没後一〇〇周年にあたります。ところで、そのドビュッシー自身の演奏をパリで聴いた日本の文豪がいることをご存じですか？今回は、はるばる海を渡って、ドビュッシーの音楽に最初にふれた日本人たちの物語です。



(写真:1)ドビュッシーの肖像

海に憧れた孤高の天才

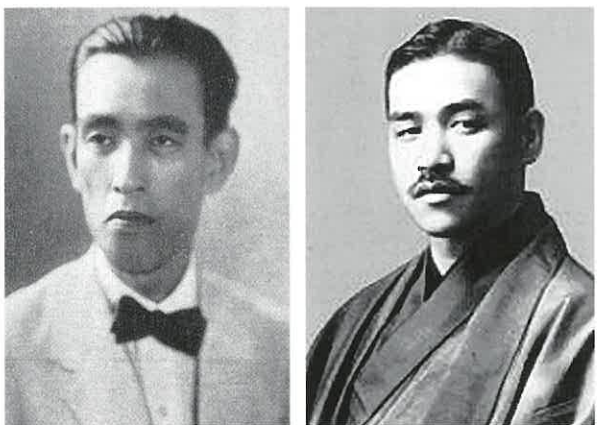
「頭の形、黒い髪、冷たい眼差し、小さなボヘミアンのような態度で人目を引いたひとりの少年」パリ音楽院の図書館に足繁く通う少年ドビュッシーの印象を、フランスのある作家はこう語っています。十歳でパリ音楽院に入学した天才少年。フランス近代を代表する音楽家というだけでなく、もし彼がいなければ近代西欧の音楽風景は全く違うものになっていたといわれます。その音楽の魅力は、何といつてもめくめく色彩感。まるで音のパレットのような多彩な描写が印象的です。当時のヨーロッパで大流行したジャポニズムの影響を受けて日本の浮世絵を愛し、もし音楽家にならなかつたら船乗りになつたというほど海を愛し、仕事場に飾った葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(写真・2)を眺めて夢中にふけていた孤高の作曲家。彼の海への憧れは、代表作でもある交響詩「海」にもよく現れています。



(写真:2)北斎「神奈川沖浪裏」

ドビュッシーを最初に聴いた日本人

ところで、ドビュッシーをフランスで最初に聴いた日本人は、どのような人たちだったのでしょうか。まずは、明治の文学者、上田敏(写真・3)と、作家の永井荷風(写真・4)。ふたりは、ともに一九〇七から八年にかけてヨーロッパに滞在し、オペラを中心に毎晩のように音楽会に通った音楽通でもありました。ふたりにとつてドビュッシーは、最先端の西洋音楽でした。永井荷風は、ドビュッシーについて「フランスの詩人マラルメの『森の神の午後(牧神の午後)』という有名な詩を音楽にしたものを聴いた。これはフランスのドビュッシーという音楽家の作で、最新中の最新の音楽だ」と語っています。まだ日本人のクラシック演奏家がほとんどいかなかった時代とはいえ、最初にドビュッシーに注目したのが、音楽家ではなく文学者だった、というのはおもしろいですね。



(写真:4)永井荷風

(写真:3)上田敏

文豪、藤村が描くドビュッシーの風貌

もうひとりは、『破戒』『春』などの名作で知られる明治の文豪、島崎藤村(写真・5)です。彼は、一九三三年から約三年間にわたってフランスに滞在し、一九四四年三月二日には、パリのサル・ガヴオー劇場で、ドビュッシー自身のピアノ演奏を聴いています。ドビュッシーの印象について、彼は文学者らしい表現でこう語っています。

「深思するかの如く洋琴の前に腰掛け、特色のある広い額の横顔を見せた、北部仏蘭西人の中によく見るやうな素朴な感じのする風采の音楽者がパルド才婦人の伴奏として、丁度三味線で上方唄の合の手でも弾くやう



(写真:5)島崎藤村

に静かに、非常に渋いサッセステイヴな調子の音を出し始めました。この人がドビュッシーでした」(注…パルド才婦人とは共演者の歌手ニノンヴァランのこと)

長唄？三味線？

藤村がドビュッシーに聴いた日本の音

上田敏や永井荷風が、ドビュッシーの音楽を最新の西洋音楽として聴いていたのに対し、島崎藤村は、ドビュッシーの音楽を日本人の感覚に近い音楽として聴いています。その演奏についての文章が残っています。少し長いですが、とても興味深い文章なので引用します。「耳を澄ましてみると、夕方方の林に小鳥の群れが集って、互いにガチャガチャ鳴き騒いでいるような音がきこえてくる。みると、演奏者の指は鍵盤のごく高い音の出る部分に集まっていた。どうかすると、ごく無造作にポツンと音の流れが切れて、それで一つの曲の終わったのもあった。西洋音楽というものは、こうだと平素決めてかかっているような人にこの演奏を聴かせたら、おそらくその考えを根底から覆されるだろうと思う。新しい声である。その新しさは、新奇であるために心を引かれるのではなく、自分たちの心に近い音楽であると感じるところより生じてくるのだ。不思議にも私は、西洋音楽ということあまり胸に浮かべずに、かえって軒屋の小三郎の長唄とか、六左衛門の三味線とかを思い出した。絵画といわず、文学といわず、むかしからある我が国の芸術は印象派的の長所を多分に備えている。われわれは生まれながらの印象派の趣がある。我が国の音楽が姉妹の芸術からひとり仲間はずれであると考えられるだろうか」(島崎藤村『平和の巴里』より)。ドビュッシーの音楽に日本を聴くと、とても鋭い指摘ですね。それにしても、ドビュッシーのピアノ演奏に長唄や三味線の音を連想するとは、明治の文学者の耳は、現代的な感覚からみても、かなり研ぎ澄まされたものであったといえそうです。

浦久俊彦

主要参考文献
Dictionnaire Encyclopédique de la Musique, Université d'Oxford/Robert Laffont
アンドレ・ジャネル、山内里佳訳 『ドビュッシーをめぐる変奏』 みすず書房、2012
荷風全集 第五巻 ふらんす物語 岩波書店 1992
藤村全集 第六巻 筑摩書房1967
佐野仁美 『ドビュッシーに魅せられた日本人』 昭和堂 2010

●プロフィール

浦久俊彦

文筆家、文化芸術プロデューサー。サラマンカホール音楽監督。パリで音楽学、歴史社会学、哲学を学ぶ。フランスを拠点に音楽を中心に、幅広く文化芸術プロデューサーとして活躍。帰国後、三井住友海上しらかわホールのエグゼクティブ・ディレクターを経て、浦久俊彦事務所を設立。公益財団法人日仏会館文化事業委員、一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事として、日本とヨーロッパの文化芸術交流にも力を注いでいる。著書に『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』(新潮社)、『138億年の音楽史』(講談社)がある。

ロゼシアター開館25周年に寄せて

VOL.01

佐々木 晃彦

豊かさの輪郭

「私たちはパンだけでは生きることができない、心の糧無くしては生きていくことができない存在である」と言われる。歴史をたどれば、家畜を飼って農作業を営み、腹の足しを求めた農業革命、利便性を求め、例えば車を開発生産して、脚の足しを求めた産業革命があった。私たちは、いま、文化的潤いとなる、心の足しを求める時代に在る。世俗的な欲得を得るために、手段を選ばないリレーターが新聞を賑わす日常は、文化的で豊かな社会とは言えない。私たちが求めているのは、周辺環境と共生する倫理観、社会観、人間観があり、量的存在(経済)に等しく質的存在(文化)が備わった状況である。いくら経済的に潤い、モノに満たされても、真の豊かな空間を実感することは難しい。

豊かさを支える質感の一つは、余暇活動でもたらされる。私たちは、日常的な生きがい旅行、スポーツ、美術、音楽、演劇、映画など、実利とは無縁の感性を抛り所とする非日常的行動に見いだそうとする。高い満足を与えてくれるのは、スルコト行動がもたらす個人的な体験や体感なのだ。言い換えるなら、これからの経済には、計量化が容易でないスルコト行動と社会の良好な関係をつくることが不可欠と言えよう。これは、文化経済学が掲げる哲理である。

文化経済学を創設したジョン・ラスキン(一八一九〜一九〇〇)は、「先ず



新進アーティスト作品展vol.16
Art Generation 2018
優秀賞受賞 2018.3.3 sat~3.11 sun

小松麻里子
(こまつまりこ)



受賞の感想を

育児中心の生活を変えたいという気持ちで応募しました。受賞の連絡をいただいた時、つくることをがんばれと応援してもらえたような、その電話で後押ししてもらえたような気がしてうれしかったです。

会期中ご家族と見に来たようです。が反応はどうでしたか。

家で制作している時と会場で展示されている時との違いを家族は感じたようです。家では「これ何だろう」と見ていたけれど、会場で展示されると「これは作品なんだ」と思ったようです。

作品について

何が描いてあるのかわからないと思われませんか。私の作品にはこの形が...という一つ一つの説明はなく、自分の目で見えた感動の景色を、制作したいという気持ちでつくりました。自分の気持ちで表現できるのはあの位のサイズでしかないと思います。作品の前に立つと落ち着く、癒される、優しい気持ちになれる、素直に感覚的に入ってきたよ、と多くの感想をいただき、アートとか現代美術とか難しいことを考えず素直



優秀賞受賞作品「青すぎる空」



版画に興味を持ったのは

美大は油絵で入ったのですが、大学2年のヨーロッパ旅行の時に、現地の有名美術館で浮世絵展が開催され、とても人気がある様子を目の当たりにしました。自分は日本人なのに油絵に憧れて、浮世絵のことよく知らなくて、現地のの方が逆に良く知っていてとても矛盾を感じました。もっと勉強したいと思い、版画を始めました。

版画の魅力とは

木版画はその制作過程も作品のひとつだと思います。絵具でやれば一日で終わることも、手間をかけた工程を経ると、絵では表せない魅力が出てきます。道具にも愛着があつて刷毛、パレンなど技法によって使い分けるので種類も多く、それらを専門に扱う昔ながらの店があり、すべての背景にある伝統も魅力的です。

制作時間をもう少し増やしたいと話す小松さん。版画作品の魅力がこれからは私たちに紹介していただきたいと思っています。

小松麻里子 (こまつまりこ)

静岡県富士市出身
2008 日本大学芸術学部美術学科版画コース
木版画専攻卒業
日本大学三島高等学校・中学校
美術非常勤講師
2012 退職 現在2児の母

◆新進アーティスト作品展・静岡県内の18~35歳を対象とする美術の公募展

人ありき」を提唱し、お金の有効な使い方旅行に求めた。経済活動は経営を通じて行われることから「経営は経済活動の細胞」と言われるが、ウイリアム・モリス(一八三四〜一八九六)は、「芸術の発展・普及が経済の発展に繋がる」と主張、今から一二〇年も前に芸術経営学の必要性を示唆している。実は、私たちの消費の殆どは文化的行為そのものである。経済活動は、異質な文化を持つ者同志がお互いの豊かさを願い、精神的共感を分かち合う交流を基として行っている。豊かな社会は、心と質を満たす糧と、物と量を満たす糧が両輪とならなければならず、いずれか一方が他方を支配するようであってはならないのだ。

コミュニティとの関係

さて、潤いのあるコミュニティには、浮き浮きするような空間と時間、そして、一人ひとりの心が和む人間関係が在る。今年三月、筆者の故郷で一一四年続いた小学校が閉校となった。原因は、少子化。しかし、この小学校、至る所に子供達の作品が飾ってあった。校内は、恰も常設美術館のように思えた。が、それだけに留まらなかった。劇団が来ては芝居小屋になり、コンサートホールや映画館に早変わりしながら、コミュニティの核として一〇〇年以上にわたり機能してきたのである。ロゼシアターの規模は、それとは

比べようもない程大きい。それだけに、地域の文化を活かし、育み、保守的にやりがちな私たちの生活に風穴を開ける、特色ある芸術発信の基地となることへの期待がある。時代を写し取る鏡となる、刺激性、新規性に溢れた施設である。

マーケティング・マネジメント

芸術の効用に再度触れたい。数多ある芸術だが、一瞬のうちに変化し、消えていく音楽や芝居など、つかの間が命が幸せを实感させてくれる。これら実演芸術というサービスを経済財の視点で考えると二つの本質的な特性が見えてくる。まず、決められた場所、時間に行かなければサービスを享受できない時間・空間の特定性、そして、演じる側だけでは成立しない非自存性である。

この特性を満たすには、マーケティング・マネジメントが欠かせない。マーケティング・マネジメントのA、B、Cは、アフターサービス(顧客管理)、ピフォアサービス(練り上げた企画)、コミュニティケーション(享受者との意志確認)、そして、Dを加えるならデベロップメント(需要創出)となろうか。芸術活動を永続的なものとする生産者(芸術家)と消費者(芸術享受者)の双方に跨がるマーケティングである。当館では、事業区分を普及、育成、創作、交流、鑑賞とし、今年度もクラ

プロフィール

佐々木 晃彦(ささき あきひこ)

1946年山形県生まれ。九州共立大学名誉教授、新潟産業大学客員教授。文化経済学会(日本)理事、財団法人東京フィルハーモニー交響楽団評議員、独立行政法人日本芸術文化振興会地域文化専門委員を歴任。公益財団法人富士市文化振興財団芸術委員。共編著書に「企業と文化の対話-メセナとは何か-」「芸術経営学講座全4巻」「文明と文化の視角-進化社会の文化経済学-」「異文化経営学」(以上、東海大学出版会)、「豊かさの社会学」「南仏プロヴァンス物語」(以上、丸善)、「文化経済学を学ぶ人のために」「芸術経営学を学ぶ人のために」(以上、世界思想社)、「文化産業論」「企業文化とは何か」(以上、北樹出版)、「文化経済学への招待」「公営競技の文化経済学」(以上、芙蓉書房出版)「東アジアの現状と課題」(九州大学出版会)ほか。



多目的トイレをリニューアル

大、中、小ホールホワイエの多目的トイレが充実。オストメイトやおむつ替えシート、ベビーチェアなどの機能を増設、様々な利用に対応できるようになりました。



ふじ・紙のアートミュージアム

北山善夫展 ～歴史～

2018.5/2(水)～7/16(月)

藤原志帆展 ～平和の風～

2018.8/1(水)～10/14(日)

▶観覧料 無料

写真:北山善夫「もともと」

●開館時間 10:00～18:00
●休館日 月・火曜日(祝日は開館、水曜日に振替休館)
ロゼシアター休館日

お問合わせ先 **0545-32-6581** <http://www.fuji-paperart.jp>

プレゼントクイズ

平成30年9月5日(水)開催予定の
【松竹大歌舞伎】
上演予定である
歌舞伎三大名作のひとつと言われる作品は?
【義経〇〇様】

プレゼント「松竹大歌舞伎」
1 平成30年9月5日(水) 開演19:00
公演チケット 2組4名様

プレゼント レストラン「ROSE TERRACE」
2 御招待券 1組2名様分(4,000円相当)

【応募方法】官製はがき・私製はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、クイズの答え、希望するプレゼント名、本誌に対するご意見・ご感想をご記入のうえ、郵送にてお申し込みください。(平成30年8月10日消印有効)なお、当選者はプレゼントの発送をもって発表に替えさせていただきます。

<郵送先>〒416-0953 富士市蓼原町1750番地
ロゼシアター「情報誌ロゼ第104号」プレゼント係
※ご応募は一人様一通までとさせていただきます。
二通以上ご応募の場合は、全て無効とさせていただきます。

レストラン「ROSE TERRACE(ロゼテラス)」

世界文化遺産富士山を望みながら、落ち着いた雰囲気の店内でお食事をお楽しみいただけます。静岡県産を中心とした素材選びから真剣にこだわった料理をお出しして、皆様のご来店を心よりお待ちしております。

●ランチ 11:30～14:30
●カフェタイム 14:30～17:00
●ディナー 17:00～21:00(L.O. 20:30)
※予約等により、営業時間が前後する場合がございます。



ご法要の席承ります!

3,000円より(税別)

- ・富士山の壮大な景色
- ・幹線道路沿いの立地でアクセス便利
- ・駐車場多数あり
- ・皆が認知するロゼシアター内
- ・バリアフリーで車椅子でも困りません(EV、スロープ完備)
- ・足腰楽々イス・テーブル席でのお食事



◆逆さ富士御膳花 1,500円(税別)
お造りから漬物、焼き物、揚げ物などいろいろ入ったお助けランチです。
(香の物・味噌汁付)
ディナーにつきましても豊富な品揃えとなっております。詳細につきましては、こちらをご覧ください。<http://www.nasubi-td.com/rose/>

編集後記

毎回著名な方々にご登場いただく情報誌ロゼの巻頭インタビュー。撮影時は通常関係者以外入れない場所で行います。しかし、今回の片岡愛之助さんは、まさかのフリースペースでの撮影を敢行。行き交う人々に笑顔で手を振りながらも撮影に応じる愛之助さんには、我々取材陣も感服いたしました。インタビューから窺える気取らない様子と、撮影で見える凛とした様子が9月の舞台ではどのように観られるのか楽しみです。(K)

ロゼシアターホームページで情報を!! <http://rose-theatre.jp> ◆公演情報 ◆施設の空き状況 ◆交通情報など



Flash Back

平成30年2月▶平成30年4月

ロゼシアター主催事業をお客様のアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。

おでかけクラシック～フルーツとハーブの調べ～

平成30年2月15日(木) 特別養護老人ホーム風の杜・鹿岡病院



ロゼフォークプラザ

平成30年2月18日(日) 大ホール

- 青春時代を思い出す歌にふれてよかったです。一緒に歌う場があり、声を出す気持ちよさを味わえてうれしかったです。 60歳代・女性
- トークが面白く時間があっという間に過ぎました。ステキな時間をありがとうございました。主人と二人で息子からのプレゼントでした。 50歳代・女性
- 懐かしいひと時を過ごさせていただきました。自分の学生時代を思い出しました。また来年も来たい! 60歳代・男性



TSUKEMEN LIVE 2018 ～We are～

平成30年3月3日(土) 中ホール

- 時にあたたかく、時に楽しく、そして情熱的な楽曲はどこか懐かしく、どれも心に染みます。日本の心を感じます。これからのご活躍も期待します。 50歳代・女性
- 富士市でのコンサート待ってました!男性も素晴らしいので夫婦で楽しめました。またぜひ富士市に子どもにも聞かせたい! 30歳代・女性
- 美しい音の力を感じました。エネルギーで若い体に響きました。ありがとうございました。お疲れ様! 60歳代・女性



新進アーティスト作品展vol.16 Art Generation2018

平成30年3月3日(土)～3月11日(日) 展示室

- 力作ぞろい、すばらしいパワーを感じました。深く考えている高校生は、これからの日本を作っていく人たちだと思います。 60歳代・女性
- 全体のレベルが高くて面白かったです。色々な人の世界観に触れることができ、とても良い機会になりました。 高校生・女子
- 地元で富士市や静岡にこんな素敵な芸術作品を創る若者がたくさんいるんだと驚きました。また来年も観にこうと思います。 40歳代・女性



新人音楽家による演奏会2018

平成30年3月8日(木) 小ホール

- お一人おひとり個性がでていて、良かったです。皆様これからも活躍ください!素晴らしいです!! 50歳代・女性
- 地元でこんな音楽家がいるのかと感心しました。静岡にとどまらず全国でも活躍してほしいです。素晴らしいです。 60歳代・男性
- 若い人達の真剣な演奏はとても楽しめました。エネルギー溢れる演奏会でした。皆様これからも活躍ください! 50歳代・女性



ふじ寄席 春風亭昇太独演会

平成30年3月14日(水) 中ホール

- テレビでみて、落語に興味を持ちました。このように近くで見ていただけると観に行きやすかったです。また富士に来てください! 30歳代・女性
- 昇太さんの独演会を初めて聞きました。テレビで拝見するイメージどおりで、話もとても面白く聞かせていただきました。 50歳代・女性
- 落語を初めて聞きました。新鮮さも感じ、歴史的でもあり、とても親しみやすくてよかったです! 昇太師匠さすがです! 60歳代・男性



おでかけミュージカル「涙色のキャンディ」

平成30年3月24日(土)・25日(日) 通山リハビリテーション病院・丘まちづくりセンター

- 初めて観させていただきました。子供と大人が共に楽しめるのはいいですね。チャンスがあれば出掛けます。これからも頑張ってください! 70歳代・女性
- とても感動しました!小さい子も一生懸命で、本当に感動してしまいました。ぜひまた観てみたいです。これからも頑張ってください! 20歳代・女性
- 子どもたちが楽しそうで、こちらも楽しくなりました。皆のエネルギーをもらい、おばさんも明日から頑張らねばー! 60歳代・女性



ロゼこどもスプリングコンサート

平成30年4月14日(土) 中ホール

- 4才の娘が終始楽しそうに参加していました。1才の息子も前のめりになり手も動かし、楽しそうでした。大満足です。 30歳代・女性
- ベビーカー置き場や授乳室の用意など子連れに嬉しい配慮を沢山してくださっていて、安心して来られるコンサートだと思いました。 30歳代・女性
- 今回で三回目です!そして今回もよかったです!子供がかわいげなのが嬉しい。音楽に触れあえる機会をありがとうございます。 20歳代・女性

